

## 小中高校生部門 優秀賞

### 生きる喜び

小学六年生 高木 元翔

ぼくは『ブンナよ、木からおりてこい』を読んだのは二回目です。きよ年読んだ時も感動したけど、もう一度読んでみたいと思いました。

ぼくが一番心に残ったのは、ブンナが木から下りてこう言ったことです。

「おい、みんな、がんばって生きようね。今日一日をね。生きられる今日の喜びを、昨日の悲しみなんか忘れて、みんなで声を合わせて歌おうよ」

この文を読み、「今日一日を生きる喜び」って何だろうと考えさせられました。その結果「ご飯を食べ、親や友達と話したり遊んだり、そんな当たり前の生活ができる」それだけで生きる喜びを感じているのではないかと考えました。

死んでしまったら、ご飯も食べられず話をしたり遊んだりできなくなるからとても悲しいことなんだと改めて思いました。だから、ブンナは木の上のいた時、目の前で死んでいったもの達をすごく悲しく思い、自分が生きて帰ってこられたことをすごく大事なことだと思っただけだと思います。当たり前のことができる喜び、すばらしさをみんなにも伝えたくっただけだと思います。ぼくもこれから先、この喜びをまわりの人としっかり感じとりながら生きていきたいです。

ブンナは木の上の穴で、いつ死んでもおかしくなかったのに、よくここまで考えられたなと感心しました。恐ふにふるえながらもとても落ちついていたので生きて帰れたのだと思いました。ぼくもブンナみたいに勇氣と困難をのりきる生き方を見習いたいです。

もう一つ、心に残ったのがつぐみの言葉、

「今、このしいの木の上で死んでも、今までにまいた種が大きな木になることで喜んで死ぬる」

と言ったことです。この言葉に、ぼくはつぐみはやさしいなと思いました。なぜなら、つぐみは自分が役に立ったことを、「死ぬという恐ふ」を打ち消すほど喜

んでいるからです。もしぼくがつぐみだったら、死ぬのがこわくて自分が役に立ったことなど考えず、ただ死にたくないと思わないうと思います。ぼくは、つぐみも生きる喜びを感じているんだなと思いました。なぜなら、つぐみは他の者の役に立ったことを自分の喜びとしているからです。人の喜びを自分の喜びとする、そんなつぐみのように、やさしく人のためを思った行動をして喜べる人にもなりたいです。

ブンナは「カエルには、つぐみのようにこんな勇氣があるのだろうか」と考えています。ブンナは、つぐみのことを尊敬して、自分を反省しています。このようなブンナだから、生きる喜びを自分のものとして木のでっぺんから帰ることができたんだと思います。

ぼくはこの本を読んで、ブンナもつぐみもすごいと思いました。だから、ぼくも生きる喜びをしっかり実感して、また、つぐみのように、人の役に立ったことを自分の生きる喜びにできるようにしたいです。

水上勉さん、ぼくはあなたの本を読み、生きる喜びについて考えさせられました。あなたがいたブンナがこれほどぼくを考えさせてくれたのはあなたのおかげだと思います。ぼくもブンナを見習って生きる喜びや他の人たちへの感謝をもって生きていきたいです。ありがとうございました。